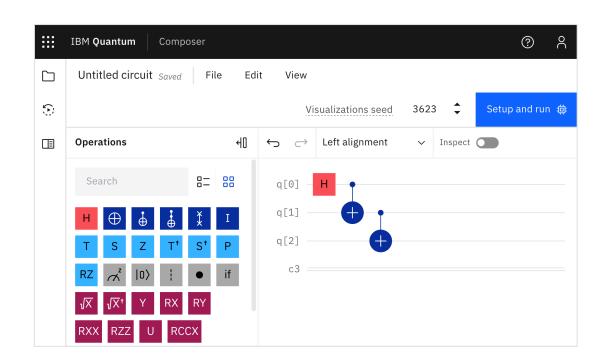
Kawasaki Quantum Summer Camp 2024

量子ゲート基礎 IBM Quantum Composer

Jul 29, 2024

沼田祈史 Kifumi Numata IBM Quantum







IBM Quantum

どちらか コイン コイン 裏

おもて



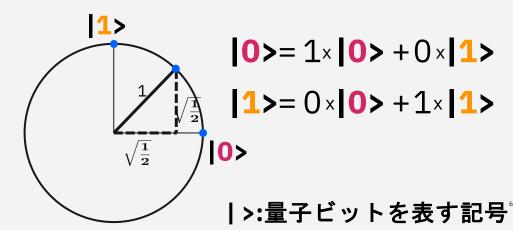


測定すると表か裏にバシッと決まる

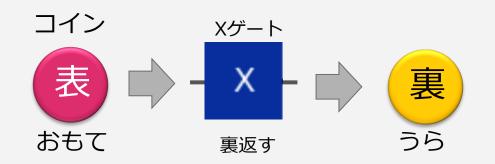
量子コンピューターの 量子ビット

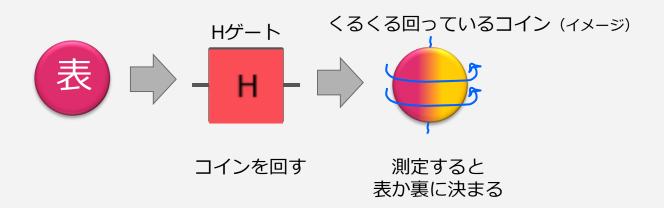
$$\alpha \times |0\rangle + \beta \times |1\rangle$$

0と1の「重ね合わせ」

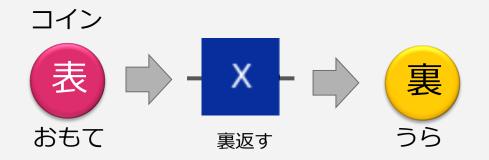


量子コンピューターの計算方法





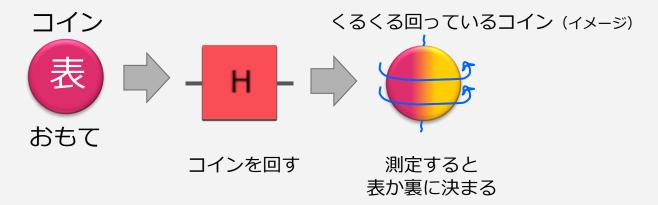
Xゲート





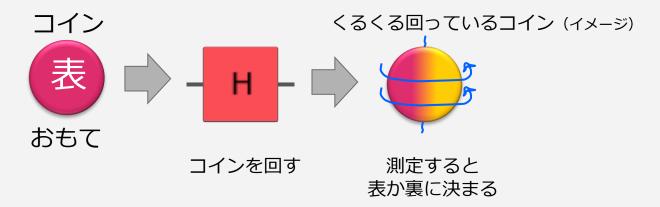
- 1

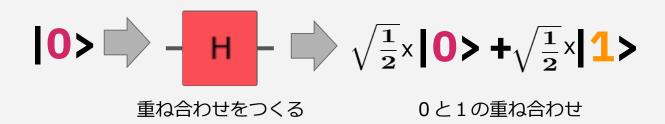
Hゲート



.

Hゲート





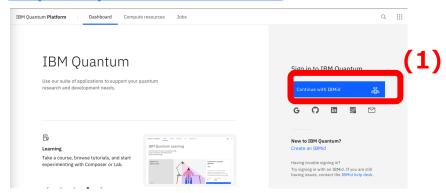
量子コンピューターの計算方法



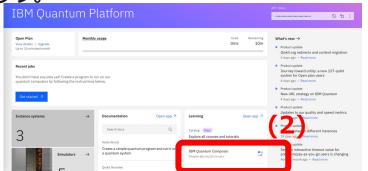
ハンズオン: IBM Quantum Composer

(1) IBM Quantum にログインします。URL:

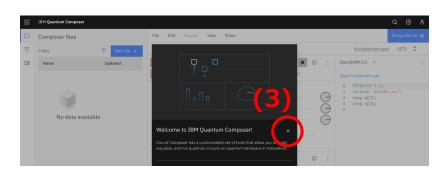
https://quantum.ibm.com/



(2) 中央下の方の「IBM Quantum Composer」を クリック。



(3) ポップアップウィンドウは「x」をクリックして、閉じます。

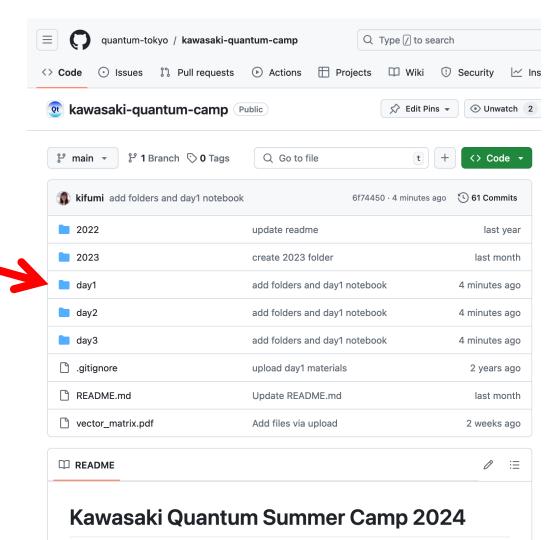


(4) この画面になったら準備完了です。

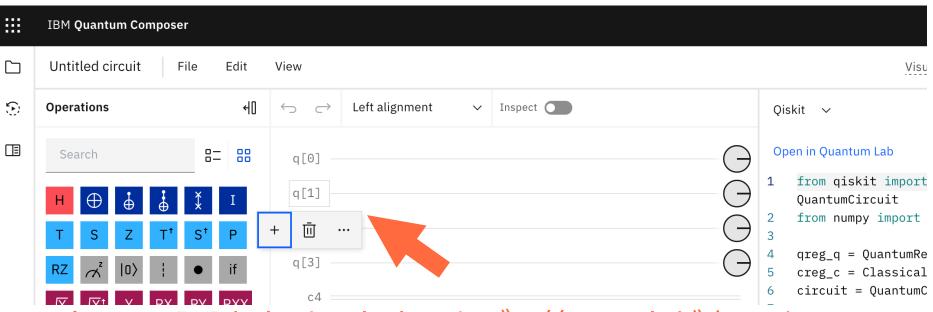


ハンズオンの資料

URL: ibm.biz/kwskgit



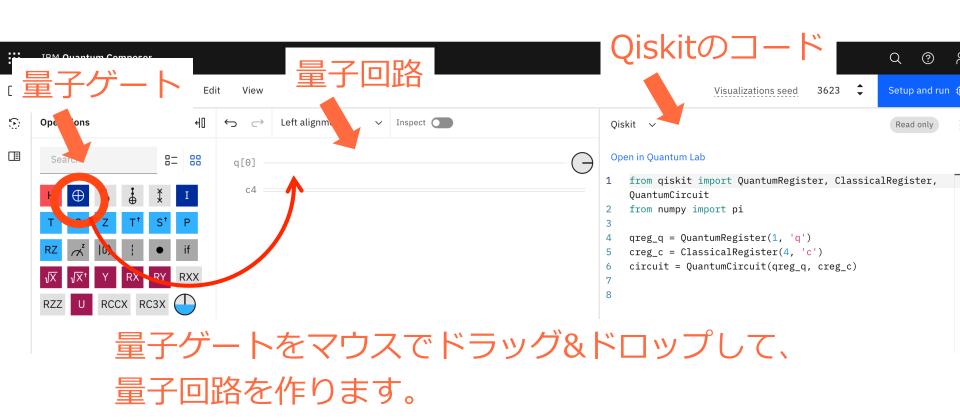
1量子ビット回路



マウスでq[1]をクリックするとゴミ箱マークが出てくるので、 クリックして消します。

q[0]だけにして、1量子ビット回路の準備をします。

1量子ビット回路



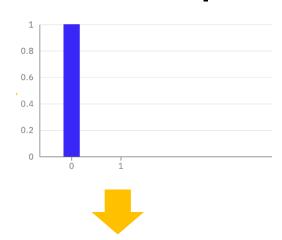
右側には、Qiskitのコードが自動生成されます。

1. Xゲート(NOTゲート)

図の回路を作ってみてください。下に表示される棒グラフの変化を確認しましょう。



初期状態は10>



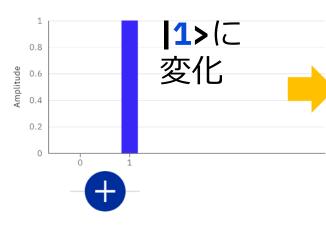
棒グラフ (Statevector 表示) は 量子ビットの状態

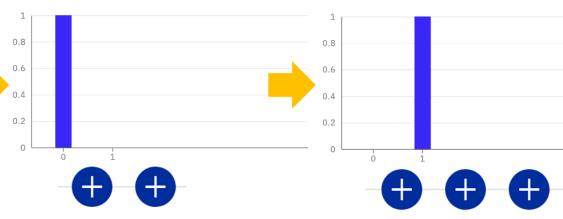
$$\alpha \times |0\rangle + \beta \times |1\rangle$$

の α, β (確率振幅)です。

$$|0>=1\times|0>+0\times|1>$$

$$|1> = 0 \times |0> + 1 \times |1>$$



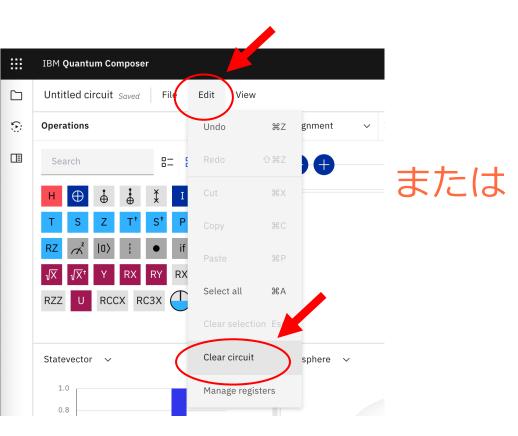


量子コンピューターの計算方法

$$|0\rangle$$
 $|-H|$ $-\sqrt{\frac{1}{2}}\times |0\rangle + \sqrt{\frac{1}{2}}\times |1\rangle$

重ね合わせをつくる

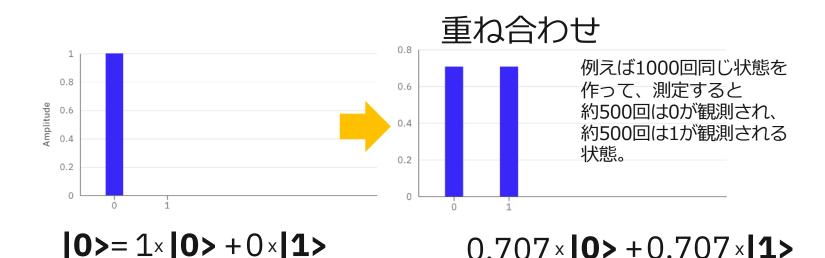
置いたゲートを取り除く





2. Hゲート

図の回路を作ってみてください。下に表示される棒グラフの変化を確認しましょう。



$$0.707 \times |\mathbf{0}\rangle + 0.707 \times |\mathbf{1}\rangle$$

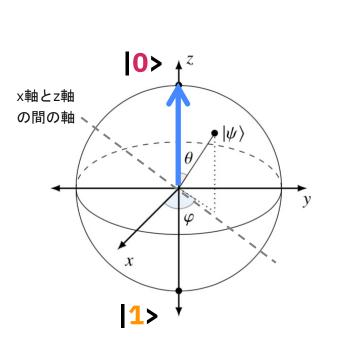
$$= \frac{1}{\sqrt{2}} \times |\mathbf{0}\rangle + \frac{1}{\sqrt{2}} \times |\mathbf{1}\rangle$$

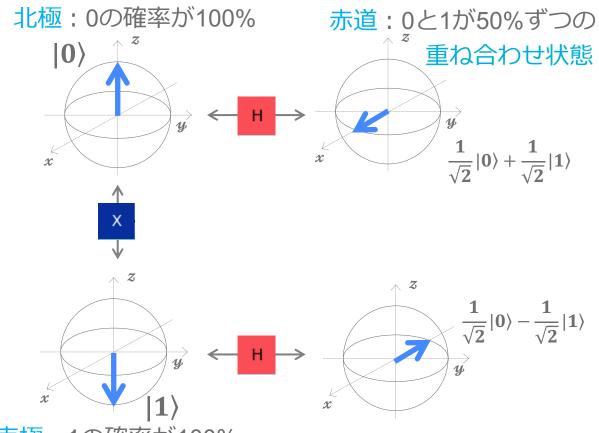
2. Hゲート

図の回路を作ってみてください。下に表示される棒グラフの変化を確認しましょう。

量子コンピューターの計算方法

ブロッホ球

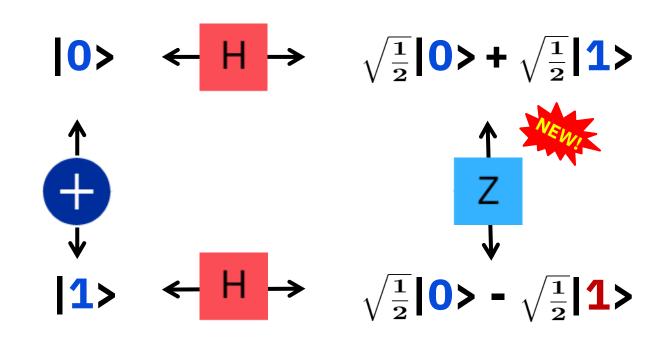




南極:1の確率が100%

量子コンピューターの計算方法





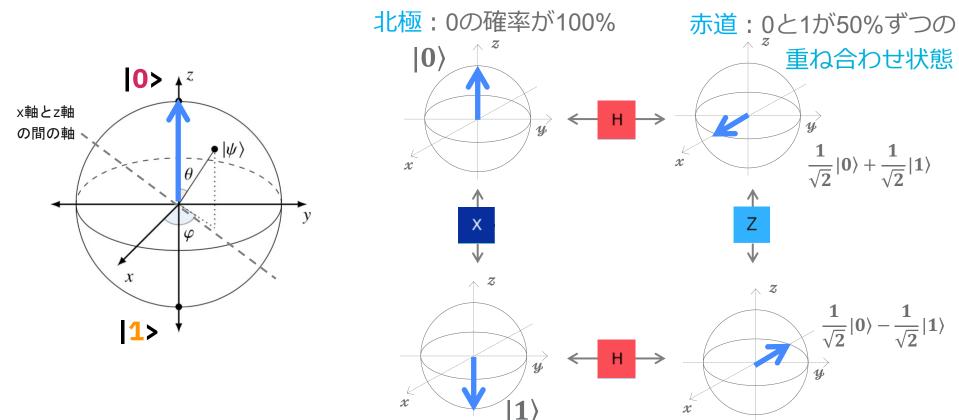
3. Zゲート

図の回路を作ってみてください。下に表示される棒グラフの変化を確認しましょう。

量子コンピューターの計算方法



ブロッホ球



南極:1の確率が100%

4. 量子重ね合わせ

q[0]をクリックして、さらに「+」マークをクリックして、2量子ビットの回路を 準備します。



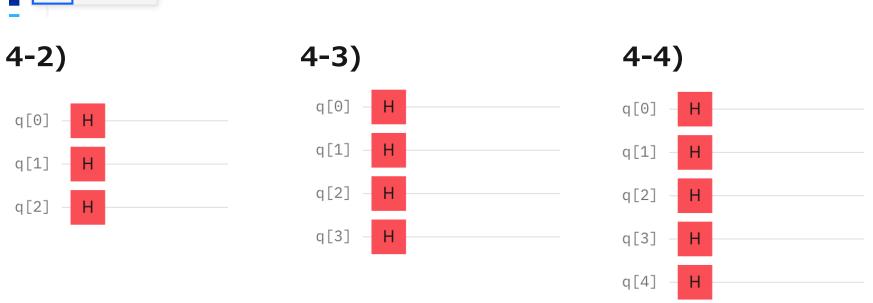
図の回路を作ってみてください。下に表示される棒グラフの変化を確認しましょう。

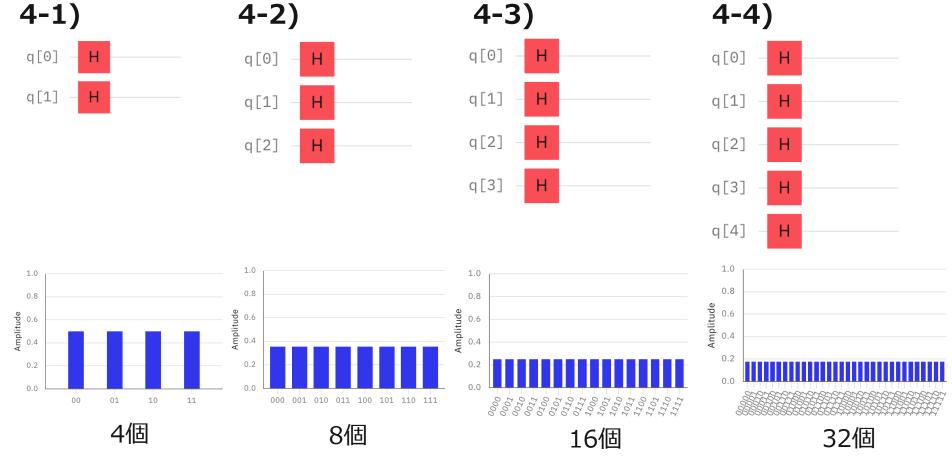
4-1)



さらにq[1]をクリックして、さらに「+」マークをクリックして、3量子ビット、4量子ビット、5量子ビットの時の重ね合わせ状態を確認します。







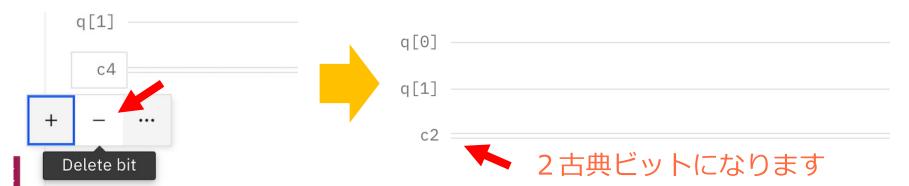
量子ビット数(n)が増えるにつれて、量子状態が倍々に $(2^n$ 個に)増えていくことがわかります。

2量子ビット・2古典ビットの状態を作る

q[0]をクリックして、さらに「ゴミ箱」マークをクリック、を繰り返して、2量子ビットの回路を準備します。



次に、c4をクリックして、「-」マークをクリックするを2回繰り返して、2古典 ビットにします。

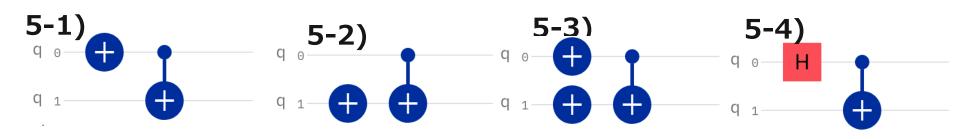


5. CNOTゲート(制御Xゲート)

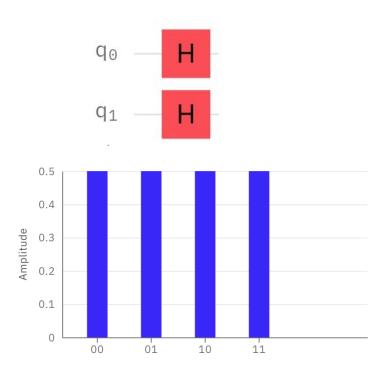
制御ビットが|1)のときのみ、目標ビットを反転(NOT)するゲートです。



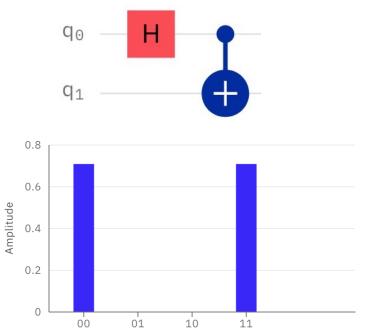
入力		出力	
目標 ビット	制御 ビット	目標 ビット	制御 ビット
0	0	0	0
1	0	1	0
0	1	1	1
1	1	0	1



量子重ね合わせ



量子もつれ (エンタングルメント)



CNOTゲートは、 エンタングルメントを作ります。

量子重ね合わせ

量子もつれ (エンタングルメント)

••• 25%

••• 50%

0 1 ••• 25%

2量子ビット目も0

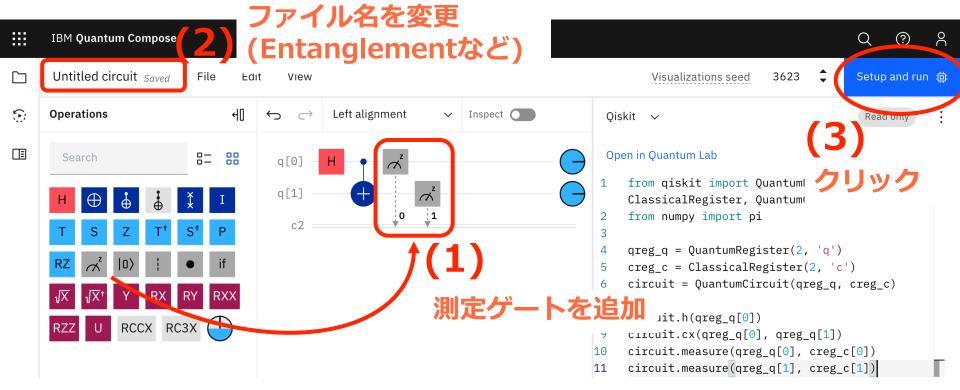
0% 1 0 ••• 0%

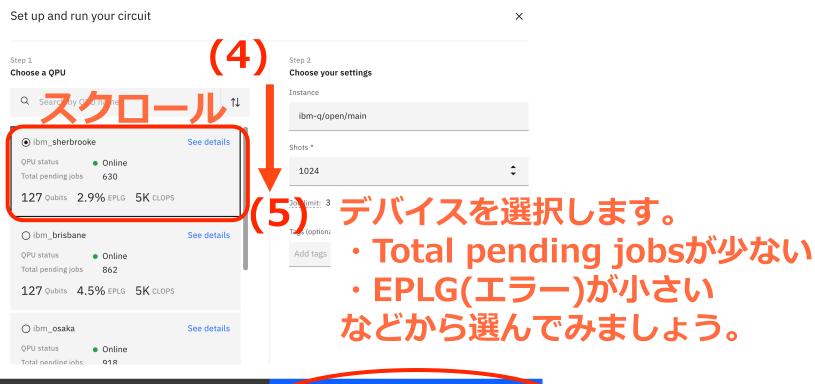
10 ••• 25% 11 ••• 25%

1 1 ••• 50%

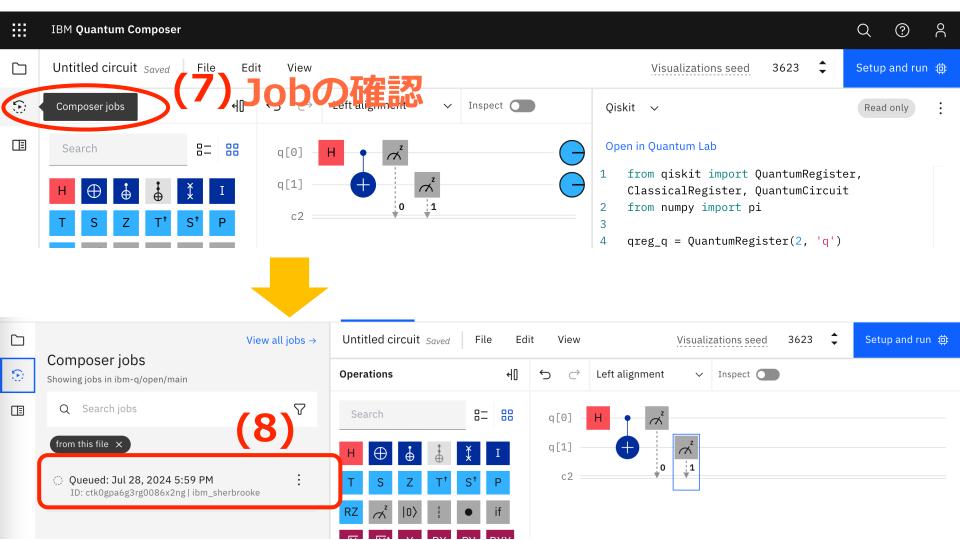
1量子ビット目が0だと分かったら

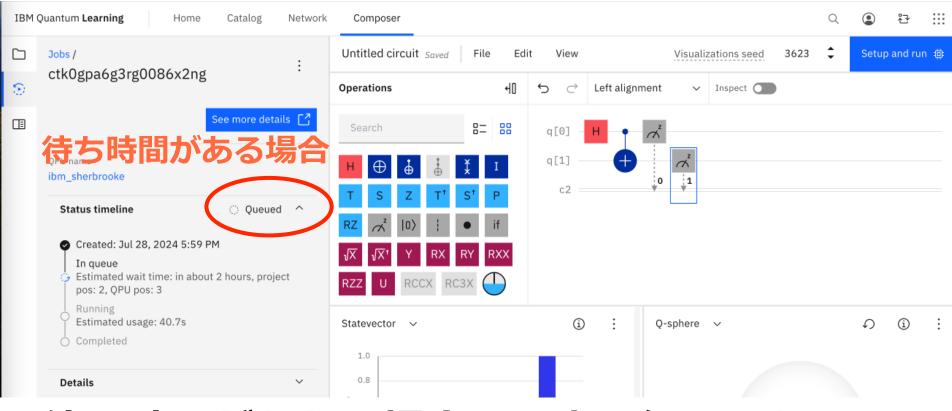
6.量子コンピューターで実験



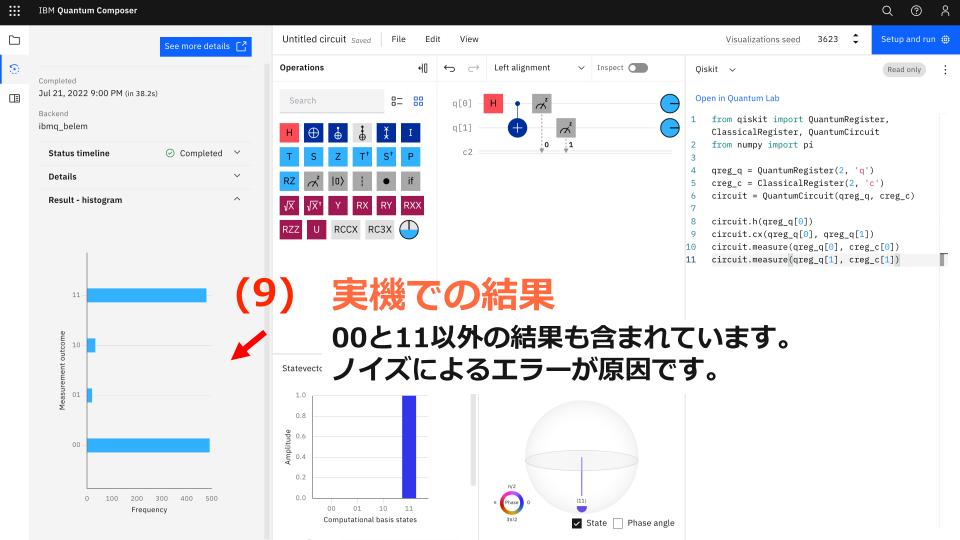


Close Run on ibm_sherbrooke (6)





待ち時間がかかる場合は、少し経ってから 確認します。

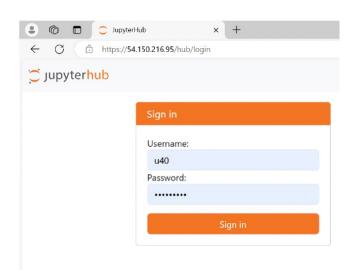


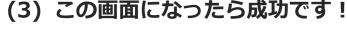
JupyterHubでの実行

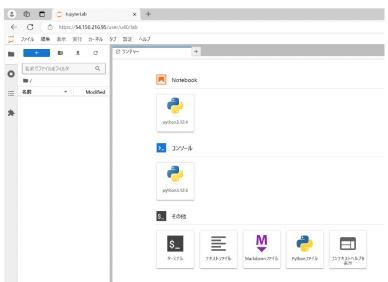
(1) Webブラウザー(Edge、Safari、Chrome、Firefoxなど)で https://54.150.216.95にログイン。



(2) ユーザ名とパスワード(メールで配布)を 入力して、「Sign in」をクリック。







Kawasaki Campが終わった後、Qiskitを実行する場合

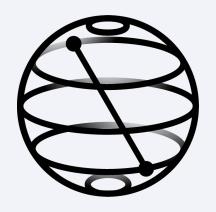
(1) Google Colabratory (https://colab.research.google.com/) を使う。 毎回、以下のコマンドを最初に実行する必要があります。

```
!pip install qiskit qiskit[visualization] qiskit-ibm-runtime qiskit-aer
!pip install qiskit-algorithms qiskit-nature scikit-learn
!pip install --prefer-binary pyscf
```

参照ブログ: https://qiita.com/kifumi/private/51a5d2a420e6318f78fb

(2) qBraid (<u>https://www.qbraid.com</u>) を使う。 実機で実行する場合は、以下のコマンドを実行する必要があります。

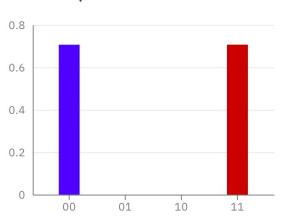
%pip uninstall --yes simplejson



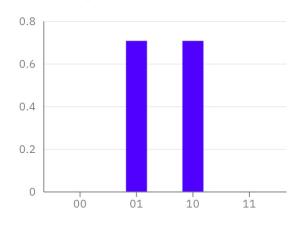
演習問題

2量子ビットのエンタングル状態を作ってみましょう。 答えは一つではないので、どんな作り方でもOKです。

(1)
$$rac{1}{\sqrt{2}}(\ket{00}-\ket{11})$$



(2)
$$rac{1}{\sqrt{2}}(\ket{01}+\ket{10})$$



(3)
$$\frac{1}{\sqrt{2}}(|01\rangle - |10\rangle)$$

